

## 第5学年道徳指導案

平成17年10月28日(金)2校時

5年2組 (男22名 女17名 計39名)

指導者 秋山 清美

1 主題名 自然とともに(3-(1)自然愛、環境保全)

2 資料名 チョモランマ清掃登山隊(出典 学研)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

第5学年及び第6学年の内容項目3-(1)は、「自然の偉大さを知り、自然環境を大切にする。」となっている。これは、自然や動植物とのかかわりに関するものであり、自然や動植物を愛し大切に育てようとする内容項目である。第1学年及び第2学年の内容項目「身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する」と、第3学年及び第4学年の内容項目「自然のすばらしさや不思議に感動し、自然や動植物を大切にする。」という内容を受けたものである。高学年では、それらの発展として、「自然の偉大さ」への理解と、自然に学ぶ態度を身につけ、さらに自然や動植物との共存の在り方を積極的に考えて、自分にできる範囲で自然環境をよくしていこうとする態度の育成が求められている。

人間は自然の恩恵を受けて生きている。自然環境は人間にとって必要なものであり、大切なものである。しかし、高度に発達した文明社会は限りなくこの自然環境を破壊へと導いている。自然の恵みを大切に、感謝する気持ちがなければ自然環境を守ることはできない。そのためには、人間の能力を超えた自然の偉大さを謙虚に受け入れる態度と、自然の中の一員として自然と共存していく意識をもつことが大切である。

この時期の児童は環境問題についての知識や理解はある程度あるものの、日常生活の中で自然の恵みやすばらしさ、偉大さを感じる機会は少ない。これでは、人間も自然の一部で自然と共にあるという意識は育ちにくい。また、自然環境を破壊した結果がすぐには自分自身に返ってこないため、自分がどこかで自然を損なう行為をしていることにあまり気付いていない。そこで、人間は自然の中で生きていることに気づかせ、自然を大切に自然と共存していこうとする心情を育てることは、重要であると考えられる。

(2) 児童について

本学級の児童は、明るく素直で活動的である。イネ、インゲンマメの栽培やメダカの飼育等の学習や、家庭でペットの世話をする体験を通して、動植物の生命に興味・関心をもち、それらを大切にしようとする気持ちをもっている。また6月には区界教室を経験し、大自然の中での活動を通して、自然の偉大さ、美しさ、厳しさを感じる事ができた。しかし「少しだけ」「自分だけなら」「めんどうだから」のように自分の欲求を満たす為ならば、ごみを捨てたり、花を折ったりするなど、自分本位で自然を無視した行為をとってしまうこともある。

そこで、人間は自然の中で生きていることに気づかせ、自然を大切に自然とともに生きていこうとする気持ちを育てていきたい。

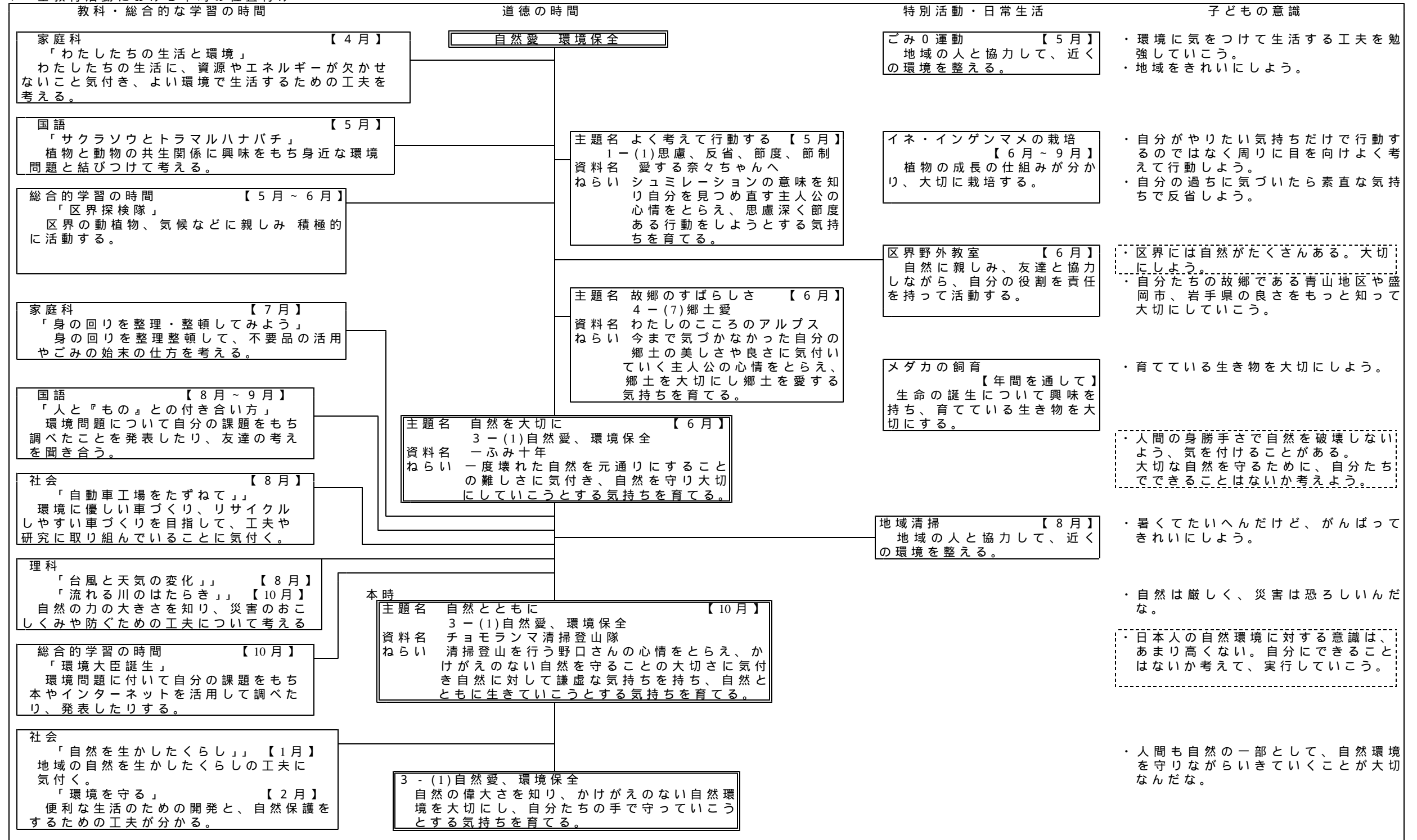
(3) 資料について

本資料は、登山家である野口健さんが、チョモランマや富士山で行っている清掃登山を通して、人間と自然との付き合い方や環境に対する意識改革を呼びかける内容である。山の自然を愛する登山家の野口さんでも、登頂の疲労により使い終わった酸素ボンベを山に置いてきてしまう。そのことがずっと心に引っかかっていた野口さんは、登山家たちの残した多くのごみを見て、清掃登山を実行する。中でも日本の登山隊が残していったごみが多かったことや、清掃登山をしているのと同じ時期にも、別の登山隊が平気でごみを捨てていたことに気づき、日本人全体の自然環境に対する意識の低さを強く感じる。「一人一人が自然との付き合い方を真剣に考えるべき時である。」というメッセージから、自分たちの生活が自然と結びついていることに気づかせ、自然環境を守り自然と共存していこうとする気持ちを育てることのできる資料である。

(4) 授業の構想について

「気づく」段階では、総合的な学習の時間での川の水質検査や酸性雨調べをしている活動場面の写真を提示して、そのときの気持ちを思い起こさせ、本時の価値への方向付けをする。そして、それらの活動を通して、自分たちの環境を守ろうとする意識の低さを考えさせながら、「深める」段階では、資料中の人物の心情に深く共感できる発問を工夫したい。そうすることで、「自然愛、環境保全」の価値の自覚に実感が伴い、体験で感じていた道徳的価値を明確にすることができると考える。また、「見つめる」段階では、自己を見つめることでこれからの活動に積極的に関わろうとする意欲を持たせたり、自分の行いの中に道徳的価値を見つけ自信を持たせたりしたい。最後に、身近な地域の環境保全の実践事例を紹介して、自然とともに生きることの大切さを感じられるようにしたい。

4 全教育活動における本時の位置付け



5 本時の指導

(1) ねらい 清掃登山を行う野口さんの心情をとらえ、かけがえのない自然を守ることの大切さに気づき、自然に対して謙虚な気持ちを持ち、自然とともに生きていこうとする気持ちを育てる。

(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	指導上の留意点や支援
気 付 く  10分	<p>1 総合学習で行った川の水質検査や酸性雨調べの活動について話し合う。 川の水質検査や酸性雨調べをして、環境についてどんなことを感じましたか。</p> <p>2 資料のあらすじを確認し学習課題を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川が汚れているんだな。</li> <li>飲み水も汚れてしまうのだから心配に思った。</li> <li>酸性雨を防がなければ。</li> <li>川の水をきれいにしたい。</li> <li>どんな気持ちで清掃登山をしているのだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質検査や酸性雨調べの活動の写真を提示し、そのときの気持ちを振り返って話し合うことで、価値への方向付けをする。</li> <li>感想から学習課題を設定するようにする。</li> </ul>
	野口さんは、どんな気持ちできびしい清掃登山を続けているのだろう。		
深 め る  23分	<p>3 「野口さん」の気持ちを中心に考え話し合う。 世界最高峰のエベレストのごみを見たとき、野口さんはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>清掃登山と同じ時期に、別の登山隊がごみを捨てていたことを知った野口さんは、どんな気持ちだったでしょう。</p> <p>ごみに汚された富士山を見て、野口さんはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>野口さんは、どんな気持ちで清掃登山を続けようと考えているのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみが多くて驚いた。</li> <li>アジア人として、登山家として恥ずかしい。</li> <li>山を汚してはいけない。</li> <li>山の自然を自分の手で守りたい</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>続けていけば、分かってもらえる。</li> <li>ここでやめてはだめだ。</li> <li>むだな活動だったのだろうか。</li> <li>やる気をなくしそうだ。</li> <li>がっかりだ。</li> <li>くやしい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本人の自然環境に対する意識の低さががっかりした。</li> <li>なぜ、日本のシンボルの富士山を日本人はごみの山にしてしまったのだろう。</li> <li>大好きな富士山を自分の手で守りたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>人間の身勝手さで自然環境を壊すことは許されない。</li> <li>一度壊れた自然環境を元に戻すことはとても難しいから、大切にしなければいけない。</li> <li>人間は自然の中で生きている。自然を大切にしながらつき合っていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エベレストのごみの多さに驚き、アジア人として登山家として恥ずかしくなり、山の自然を自分の手で守ろうとする野口さんの気持ちに気付かせる</li> <li>環境を守ろうと活動する一方で、以前としてごみを捨てる登山隊がいることを知り、ショックを受ける野口さんの心の葛藤に共感させる。</li> <li>総合学習の時間で感じた自然環境に対する意識の低さを想起させながら、野口さんの気持ちに深く共感させたい。</li> <li>厳しい清掃登山を続ける登山家の野口さんの気持ちを考えることで、自然に対して謙虚な気持ちを持ち、自然とともに生きるために自然環境をよくしていこうとする気持ちを持たせたい。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えるだけでなく、自分にできることは行動していこう。</li> </ul>	
見 つ め る  7分	<p>4 自分の体験を思い起こし、環境保全について考える。自然とともに生きていくために、どんなことに気を付けていますか。どんな気持ちでやっていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草花も生きているから、折らないように大切にしている。</li> <li>・川や海が汚れないようにしたいから、米のとぎ汁や食べ残しを流さないようにしている。</li> <li>・温暖化の問題があるから、冷房や暖房の温度に気をつけている</li> <li>・面倒でも、資源ごみやリサイクルで、ごみを減らすように気を付けてしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の体験の中に、価値のある行いがあるか振り返らせる。さらに、友達の考えを知ることで、これからの実践意欲を持たせたい。</li> </ul>
ま と め る  5分	<p>5 まとめをする。地域で自然環境を大切に活動している人を紹介します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域に、自然環境を大切に活動している人がいるなんて嬉しい。</li> <li>・手間をかけてでも、自然環境を守ろうとしているのが素晴らしいな。</li> <li>・わたしたちにもできることはないか考えて実行しよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の利益だけを追求せず、自然の姿を変えることなく、自然環境に合わせて活動をしている人を紹介して、自然環境を守ることの大切さを感じさせたい。</li> </ul>

# チヨモランマ清掃登山隊

野口さんは、どんな気持ちできびしい清掃登山を続けているのでしょうか。

世界最高峰

チヨモランマ  
の写真

山の自然を守り、  
きれいにしたい。

ごみの  
写真

・続けよう  
・分かって  
もらえる



・くやしい  
・がっかり  
・もういやだ

・おどろいた  
・はずかしい  
・よごしていいのか

・日本人の  
意識を  
変えよう。

富士山の  
写真

「世界でもっともきたない山」

・自分の手で  
守ろう。

・がっかり  
・はずかしい  
・どうして……

「自然とのつきあい方をしんげんに考えるべきとき」

自然とともに生きる  
自分にできること

・生きている草花  
・川、海をよごさない  
・物を大切に  
・人間のことだけを  
考えるのではなく

7 資料の分析

(1) ねらい 清掃登山を行う野口さんの心情をとらえ、かけがえのない自然を守ることの大切さに気付き、自然に対して謙虚な気持ちを持ち、自然とともに生きていこうとする気持ちを育てる。

(2) 資料名 チョモランマ清掃登山隊 (出典 学研)

主な場面	もっともきびしい自然保護活動であるチョモランマ清掃登山を行う場面	清掃登山をしている同じ時期に、別の登山隊がゴミを捨てていることが分かる場面	富士山の清掃登山を行い、日本人全体の自然環境に対する意識の低さを感じる場面	これからも清掃登山を続け、アジアの人びと全体の環境に対する意識改革につなげようとする場面
把握すべき状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>登山家たちが残していった何百本もの酸素ボンベやテントロープや空きかん</li> <li>アジアの国々の登山家が残したゴミが多い。</li> <li>「日本のマナーは三流だ。」</li> <li>もっとも厳しい自然保護活動</li> <li>千トン以上のゴミ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品の食べ残しや空きかん</li> <li>日本の登山隊が残していったゴミが多い</li> <li>別の登山隊が平気でゴミを捨てていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かんたんにたばこのポイ捨て</li> <li>ジュースやコーヒーの空きかんも、あちこちに転がっている。</li> <li>山頂に自動販売機</li> <li>「こんなゴミによごされた山を世界遺産にはとても選べない。」</li> <li>「世界でもっともきたない山。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2002年の、ネパール側のサガルマータ清掃登山</li> <li>自然に親しむ。</li> <li>休かの楽しみ、ぼうけん</li> <li>いいかげんなゴミの放置</li> <li>自然のふところは深くない。</li> <li>自然とのつきあい方</li> </ul>
主人公の心の動き	<p style="text-align: center;">環境保全</p> <p style="text-align: center;">(決心) (使命感)</p> <p style="text-align: center;">(罪悪感)</p> <p style="text-align: center;">(憤り) (悔しさ)</p> <p style="text-align: center;">(驚き)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山をよごしていいのか。</li> <li>ぼく自身もずっと心のかたすみにひっかかっていた。</li> <li>アジア人の手できれいにしたい。</li> <li>広がり大きな喜び</li> <li>何往復もするからたいへん。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">環境保全</p> <p style="text-align: center;">(決心) (使命感)</p> <p style="text-align: center;">(憤り) (悔しさ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ショックだった。</li> <li>なんということだー。</li> <li>いい知れぬくやしさがこみあげた。</li> <li>日本人全体の、自然環境に対する意識の低さがある。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">環境保全</p> <p style="text-align: center;">(愛国心) (使命感)</p> <p style="text-align: center;">(憤り) (悔しさ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>富士山のゴミはひどい。</li> <li>すごくはずかしい。</li> <li>そんな富士山であってほしくない。</li> <li>なぜ日本人は、日本のシンボルである富士山を、ゴミの山にしてしまったのだろう。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">環境保全</p> <p style="text-align: center;">(決意) (使命感)</p> <p style="text-align: center;">(願い)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>きびしい自然保護活動もむくわれる。</li> <li>自然に親しむにはどうしたらいいのか。</li> <li>自然のふところは深くない。</li> <li>自然とのつきあい方をしんけんに考えるべき。</li> </ul>
児童の反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>山の自然を自分の手で守りたい。</li> <li>山を汚してはいけない。</li> <li>アジア人として、登山家として恥ずかしい。</li> <li>ゴミが多くて驚いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>続けていけば、きっと分かってもらえる。</li> <li>ここでやめてはいけない。</li> <li>やる気をなくしそうだ。</li> <li>むだな活動だったのだろうか。</li> <li>くやしい。</li> <li>がっかりだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大好きな日本のシンボルである富士山を自分の手で守りたい。</li> <li>なぜ日本のシンボルの富士山さえゴミの山にしてしまったのか。</li> <li>日本人の自然環境に対する意識の低さがっかりした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えるだけではなく、自分にできることは行動していこう。</li> <li>人間は自然の中で生きている。自然を大切にしながらつきあっていきたい。</li> <li>一度壊れた自然環境を戻すことは難しいから大切にしよう</li> <li>人間の身勝手さで自然環境を壊してはいけない。</li> </ul>
発問	世界最高峰のエベレストのゴミを見たとき、野口さんはどんな気持ちだったでしょう。	清掃登山と同じ時期に、別の登山隊がゴミを捨てていたことを知った野口さんは、どんな気持ちだったでしょう。	富士山の状況を見て、野口さんはどんな気持ちになったでしょう。	野口さんは、どんな気持ちで厳しい清掃登山を続けようと考えているのでしょうか。